

平成26年度青森県公社等経営評価書

(平成25年度決算ベース)

法人名等		法人の自己評価(経営評価指標)				
5	青森県道路公社					
所管課名	県土整備部道路課					
決算状況 (単位:千円、%)						
出資	資本金				県出資額	県出資比率
	8,235,500				8,235,500	100.0
決算	前期利益				当期利益	利益剰余金
	2,919				1,566	21,866
資産	資産				負債	純資産
	33,417,976				25,160,610	8,257,366
財務分析指標					上記についての所管課の意見・評価	
自己資本比率	総資産 経常利益率	県財政関与率	総資産回転率	売上高 経常利益率	【目的適合性】 ◎	
24.71	2.74	42.84	5.67	48.36	【目的適合性】 交通ネットワークの早期構築による地域経済の発展を図るために、有料道路事業により早期整備と適切な管理、運営に対する大きな役割を果たしてきたと考えられる。 料金徴収期間の取扱いについては、今後の交通量の動向等を踏まえ公社と検討していく。	
販売管理費 比率	人件費比率	流動比率	借入金比率			
4.01	4.25	41.83	32.98		【計画性】 ◎	
経営評価結果		上記についての所管課の意見・評価				
評価区分	B:改善の余地あり					
<p><財務状況> 財務の状況については、毎期、黒字を確保していることは評価できる。また、平成25年3月の上北道路開通による第二みちのく有料道路の料金収入の増加もプラス要因と認められる。</p> <p><経営状況> 法人が自己評価した経営評価指標の項目については、組織運営の健全性について、若干低調な評価となっている。これは、人事ローテーションや内部統制が十分でないことに起因している。経営の効率化を図るため限られた職員で運営せざるを得ない実情は理解できるが、今後、内部統制の充実・強化が図られることを期待したい。</p> <p><改善事項等> 当法人は、平成22年度に策定した「中期経営プラン」を上回る長期借入金債務の削減を達成していることは評価するものの、今なお、100億円を超える債務残高がある。加えて、青森空港及び第二みちのく有料道路においては、料金徴収期間(償還期間)内の債務の返済は困難な状況にあり、特に、青森空港有料道路は、平成29年7月に償還期間を迎えることから、早期に県を含む関係機関等と検討・協議を行い、適切に対応する必要がある。 なお、県においては、今後の人口減少による交通需要の変化や道路インフラの長寿命化への対応等を踏まえ、一般県道を含めた県全体の道路体系の中で、当法人が管理する3つの有料道路のあり方についても総合的に検証することが望まれる。</p>		<p>【組織運営の健全性】 ○</p> 再雇用職員等の活用しつつ適正な人員配置に努めているものの、今後の人材の育成確保も課題となることから、業務量等を踏まえた業務執行体制について引き続き検討する必要がある。				
		<p>【経営の効率性】 ◎</p> 売上高経常利益率等の推移にみられるように、収益力が向上しており、収入増加と併せ経営コストの削減への取組効果が現れている。				
		<p>【財務状況の健全性】 ○</p> 多額の長期債務を抱えているものの、入札による借入先の決定など金利負担の軽減に取り組むなど、収益力の向上と債務圧縮を着実に実現しており、財務状況が改善されている。				